

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600186		
法人名	住拓工業株式会社		
事業所名	グループホーム福寿草		
所在地	苫小牧市本幸町1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成24年8月6日	評価結果市町村受理日	平成24年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2011\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0193600186-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600186-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成 24	年 9	月 19

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
		<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/> 3. たまにある			<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度
		<input type="radio"/> 4. ほとんどない			<input type="radio"/> 3. たまに
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の開 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 1. 大いに増えている
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が			
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニット事務所に貼り出しているが、実践まで繋げる事は出来ていない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は今一図れていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かされてはいない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は連絡を取り合っている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内部研修をしたりして理解はされている。玄関は施錠している。同じホームとして何か良い方法を考えたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修に参加などしている。ホーム内の虐待はないが、声掛けにも注意はしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での内部研修を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は全スタッフに言って頂ける状態である。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見等は話す事はない		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績を把握しているとは言えない。 給与水準等定期的に見直す考えがあるかどうかもわからない。 介護業務の負担軽減について環境整備推進への理解は評価できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が職員個々の力量の把握に努めているとは言えない。 内外の研修受講について個々の知識や技術向上の為に積極的な参加を推進しているとは判断できない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	より一層会話を持つよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会話を多く持つ事を心がけ、気軽に言ってもらえる雰囲気を作る努力はしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を一番求めているかを聞かせて頂く。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に楽しめる事を見つけている。また一緒にできる作業を見つけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が一番と思っている事を十分に理解しながらも、スタッフもいる事で安心してもらえるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	よく通っていた坂道がどこかを見つけ、そこを通る時思い出話しをして頂いた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士がおしゃべりしたり、何人もの入居者の中に職員が入り楽しく話のやり取りが出来るような場面設定に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した入所者がひとりいるが、退所後の生活の場である病院に顔を見に行ったりさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく個人の希望に沿うようにはしているが、実際出来な事もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしを把握し楽しく教えてくれるよう導く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昨年と比べ1年で体力が落ちてきている方もいる。ゆっくりと過ごせるよう配慮に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回課題を出し、意見を出し合う話し合いの機会は持っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい記録は記入し、必ず全員が目を通すようにしている。他スタッフの成功例を実践したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に合わせた支援にできるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域の資源については凡そ把握しており買い物、散歩、受診等で活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	細かく意志との相談連絡は出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは24時間相談できるようになっている。アドバイスもよく受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に様子を見に行く事もある。退院時には情報を伝えてもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とよく話し合い医師や看護師とも相談し出来る事はホームで行い結論は家族に任せている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命の講習には参加している。実践力が身につけているかは少し不安である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は数回行い地域の方とも訓練を行った。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているが時と場合によっては誤った声掛けもあると思える。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望は表現して頂けていると思える。出来る限りご本人の意思も尊重するよう心がけているが出来ない事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりは当然あるが、何が優先なのかを常に考え行動するよう努めてはいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時洋服をどれにするか聞いたりすることもある。出かける時には何を着るか楽しみにして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前から見て、一緒に準備できる事が少なくなりましたが、後片付けは行っている。誕生日にはリクエストももらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1,500ccを目標としている。食事は多く盛られることを嫌う方には応じている他、副食の摂取が少ない方には味を伝え一口でも進める様にはしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアは欠かしていません。歯科医にも相談している。出来ない事は介助させて頂く。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめな誘導を心がけている。又数名の方について紙パンツ、パッドを使用せず肌着に戻した生活を送って頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	副食を残す方には食事事で便通が良くなる事を声掛けさせていただいたり、飲み物を乳製品にしたり、ゆっくりトイレに座って頂く等配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	以前は夕方以降の入浴を行っていた。現在は退職者の関係で日中の時間設定となっている。中には毎日入浴して頂いている方もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも横になりたい時は自由にして頂いています。夜間トイレ通いが頻回であったり、興奮し声を上げる方等がおり多少なりとも睡眠妨害になってしまっている所はあり改善を要すと考える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ個人に差がある状態。医師とは相談は良くしているが全スタッフにもっと緊張感が欲しい気がする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ている事もあれば、どうしてもスタッフの都合と言う事もある。少しでも入居者個々の希望に沿えるようにしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は心がけている。家族と行く事はないが全員で行ったり少人数で行ったりと楽しめるような工夫を全スタッフで行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行ったりし欲しいものは聞くがあまりない様子。又レジでお金をやり取りしてもらふ事もある。一部現金を所持している方もいるが、表立って支援できる状態ではなく自己管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て電話をかけて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については常日頃より整理整頓に心がけている。声の大きな会話を好まない方へは少し離れていただいたり、読書する方には窓側の明るい場所を進めたりとその時に応じた声掛けに心がけている。壁面には季節に合わせたさりげない飾り付けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった方々には近くでお話に花を咲かれ、独りでゆっくりしたい方は離れた所に座って頂きくつろいだりと読書する方は窓辺で光を浴びながら過ごして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具を持ち込む方もいる。本人の希望で家具の配置を移したりもしている。車椅子の方には動きやすい配置を考えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ後近くの洗面所で石鹸をつけ洗う方もいる。トイレの椅子にはトイレが開くのを待つ為自ら座って待ったりなどもされている。ベランダには職員が付き添い洗濯干しも行っている。		